

# さぐってみよう昔の暮らし | まちに伝わる祭りや行事

## 1 単元の概要

日本文化を象徴するものの一つに祭りがあります。日本の祭りは単に人々が楽しむために行われているのではなく、そこには人々の強い願いが託されています。もともと、日常生活で遭遇する災難や自然災害は神々の怒りによる仕業と考えられていました。そこで、人々は神々をもてなし、その怒りを鎮めることで自分たちの生活を守ってきました。災害や病気が多発する夏や作物の収穫時期である秋に祭りが多いのはそういった理由によるものです。地域に伝わる祭りには、人々のどのような願いが託されているのかについて学習していきましょう。

## 2 学習のねらいと手だて

- 受け継いできた祭りや行事に込められた地域の人々の願いを考えるとともに地域社会に対する誇りと愛情をもつことができるようにする。
- 地域の人々が受け継いできた祭りや行事について見学・調査し、絵や文にまとめ、祭りや行事に込められた人々の願いを考えることができるようにする。



黒崎祇園山笠の映像

## 3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 地域に伝わる祭りや行事の様子を話し合い、学習問題をつくり、調べる計画を立てる。	○ 祭りや行事の写真を提示して、それらの様子や参加した体験、祭りや行事の始まりやいわれなどの疑問について話し合わせる。	1時間
II 地域に伝わる祭りや行事の始まりやいわれ、内容、受け継ぐ人々の願いについて調べる。	○ 祭りや行事の保存に携わる人から話を聞く活動を行い、人々が協力する姿や受け継いでいくための努力について話し合わせる。	4時間
III 博物館展示物で北九州市の山笠や山車を見学し、その祭りの始まりやいわれ、内容を調べ、人々の願いを考える。	<b>博物館での学習</b> ○ パネルや小倉祇園山車、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園笹山笠を見て、祭りのいわれや人々の願いを考えさせる。 ◆ カルチャーモール	1時間
IV 地域で行われている年中行事について調べ、暮らしとのかかわりや願いについて考え、学習をまとめる。	○ 年中行事に込められた思いや願いを考え、表現させることで、地域社会の一員であるという意識をもたせるようにする。	1時間

## 4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
北九州で続けられている祭りについて調べよう。		
I 「北九州の祭り」を見て、北九州市ではたくさんの祭りが行われていることを知る。  II 博物館カルチャーモールで展示されている山笠や山車を見学する。	○ パネル「北九州の祭り」の「各地区の主な祭り」から、北九州市ではたくさんの祭りが行われていることを知る。  ○ 実物を見て、その大きさや迫力を体感させ、刻まれている字や刺しゅうの模様について調べる。 ○ 映像資料から、祭りの昼と夜の様子を比較させる。特に、「戸畑祇園大山笠」は、昼は幟山笠で、夜は提灯山笠になることに気付かせる。 ○ パネル「北九州の祭り」の「各地区の主な祭り」で、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園行事が行われている場所を確認させる。 ○ ワークシートの「祭りが行われている場所」や「祭りの特徴」を記入させる。	◆「北九州の祭り」  ◆小倉祇園山車 ◆戸畑祇園大山笠 ◆黒崎祇園笹山笠 ◆映像資料「北九州の祭り」
III 展示物に書かれている説明を読んだり、教師の話や話を聞いたりして、祭りの始まりやいわれ、内容について知る。  IV 祭りに参加する人々の願いを考え、話し合う。	○ 展示物資料や教師の話などから祭りの特徴やいわれについて学ぶことができるようにする。 ○ 知りたいことについては、事前に博物館職員に質問させ、祭りに込められた人々の願いに気付くことができるようにする。（質問する際には、事前に博物館へ連絡を入れておくこと） ○ ワークシートの「祭りのいわれや人々の願い」を記入させる。  ○ 既習の自分たちが住んでいる地域の祭りを想起させ、共通する人々の願いに気付くことができるようにする。	

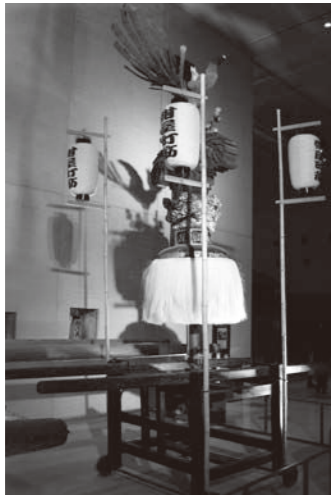
5 博物館での学習

北九州で続けられている祭りについて調べよう。

博物館での学習

北九州市には、小倉・戸畑・八幡（黒崎）に三つの大きな祇園祭があります。これらの祭りはどれも毎年夏に行われ、多くの人でにぎわいます。祭りには地域の人々の強い願いや思いが込められていますが、北九州を代表するこれらの祭りにはどのような願いが込められているのか考えながら学習を進めていきます。

博物館のカルチャーモールには、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、黒崎祇園行事で実際に使われていた山笠や山車が展示されています。実物の山笠や山車を見せて、その大きさや迫力を体感させてください。



小倉祇園山車



戸畑祇園大山笠



黒崎祇園笹山笠

映像資料では、それぞれの祭りの様子が常時映し出されており、それぞれの祭りの特徴を学習することができます。たくさんの方が携わっていること、多くの見物人でにぎわっていることに気付かせてください。戸畑祇園大山笠は、昼は幟山笠、夜は提灯山笠というように、昼と夜で山笠の姿を変えることに目を向けさせてください。黒崎祇園行事は、展示してある笹山笠でお汐井とり（潮を汲み、山笠を洗い清め、安全祈願をすること。）を行い、人形飾山笠に衣替えすることを補足説明してください。

また、パネルでそれぞれの祭りのいわれなどが説明されています。既習の自分たちが住んでいる地域の祭りを想起させ、どんな願いをもってたくさんの方が祭りに携わっているのかを考えさせ、健康や平穏無事を願う人々の願いが共通していることに気付かせてください。



昼の幟山笠



夜の提灯山笠

(映像資料「戸畑祇園大山笠」より)

1 北九州を代表する三つの祭りについて調べよう。

北九州を代表する三つの祭り	こくらぎおんだいこ 小倉祇園太鼓	とばたぎおんおおやまがき 戸畑祇園大山笠	くろさきおんぎょうじ 黒崎祇園行事
祭りが行われている場所	小倉北区	戸畑区	八幡西区（黒崎）
やまがきだし 山笠や山車の名前	小倉祇園の山車	戸畑祇園幟山笠	黒崎祇園笹山笠
祭りの特ちょう	江戸時代には、山鉾・踊り舞台・踊り子などを従えていたが、それらはなくなった。 現在は、太鼓とジャンガラでにぎやかさと勇壮さをかもし出している。	昼は豪華な刺繍をした幕で飾った幟山笠だが、夜は309個の提灯を飾った提灯山笠になる。 提灯山笠としては、日本最大規模である。	笹山笠でお汐井とり（海水で山の土台や棒を洗って清めること）をした後、きらびやかな人形山笠に衣替えする。 祇園囃子は、大太鼓、小太鼓、鉦、ほら貝でする。
祭りのいわれや人々の願い	1618年、流行った伝染病が早く治るように祈ったことから、始まった。	1803年、この地方に流行った病気がやっと収まったことを祝って、始められた。	970年頃始まった。日常生活の中で出遭う災難や自然災害が起こらないでほしいと願ってはじめられた。 お汐井とりをして、安全に祭りが行われるようお願いをしてまつりをはじめた。

2 どんな願いをもってたくさんの方が祭りに参加しているのか考えよう。

- ・元気で暮らしたい。
- ・災難や自然災害が起こらないでほしい。
- ・まつりでまちを盛りあげたい。